

ニシカゼコムギの良質安定栽培法

松江勇次・佐藤寿子・須藤新一郎・今林惣一郎 (福岡県農業総合試験場)

Yuji MATSUE, Hisako SATO, Shin-ichiro SUDO and Shin-ichiro IMABAYASHI : Cultivation Method
for Stable and High Quality Grain Yielding of NISHIKAZE-KOMUGI

最近、国内産コムギの高品質化が要望されるなかで、福岡県では農林61号とほぼ同程度の加工適性を有し、栽培特性の優れたニシカゼコムギを1984年に準奨励品種に採用した。その優れた特性から今後、急速に普及面積の拡大が期待される。

そこで本報告では、ニシカゼコムギの良質安定栽培技術を確立するために、播種時期・播種量及び施肥量と生育・収量・品質との関係について検討した。

1. 試験方法

1) 試験実施場所及び試験年次 福岡県農総試農産研究所 (筑紫野市) : 1983~'85年, 筑後分場 (大木町) : 1982~'84年。2) 供試品種 ニシカゼコムギ, 農林61号 (比較品種)。3) 播種期及び播種量 (kg/a) 11月5日 (早播)・0.5~0.7, 11月20日 (標準播)・0.7~0.9, 12月5日 (晩播)・0.7及び0.9~1.1。4) 播種様式 全耕ドリル播。5) 施肥法 (N成分kg/a) 標肥区: 基肥0.5, 第1回追肥0.4, 第2回追肥0.3, 多肥区: 基肥0.5, 第1回追肥0.4及び0.5, 第2回追肥0.5。

2. 結果及び考察

1) 出穂・成熟期 ニシカゼコムギは農林61号に比べて、早播、標準播で出穂期3~6日、成熟期で1~3日、晩播では出穂・成熟期は2~3日早かった。また、播種期の早晩による出穂・成熟期の変動は場所によってやや異なるが、ニシカゼコムギは農林61号よりやや大きかった (第1表)。

2) 播種期と播種量 早播では標準播、晩播に比べて3ヵ年とも倒伏程度が大きく、外観品質は低下した。そ

第1表 播種期別の出穂期, 成熟期

試験場所	品 種 名	播種期			出穂期	成熟期
		月 日	月 日	月 日		
農産研究所 (筑紫野市)	ニシカゼコムギ	11. 5	4.12	6. 5		
		11.20	4.18	6. 8		
		12. 5	4.24	6.12		
	農 林 61 号	11. 5	4.18	6. 9		
		11.20	4.23	6.11		
		12. 5	4.27	6.15		
筑後分場 (大木町)	ニシカゼコムギ	11.10	4.11	5.31		
		11.20	4.17	6. 2		
		12. 5	4.21	6. 3		
	農 林 61 号	11.10	4.14	6. 1		
		11.20	4.20	6. 4		
		12. 5	4.23	6. 6		

注) 農産研究所は1983~'85年, 筑後分場は1982~'84年3ヵ年の平均値。

第2表 播種期・播種量と生育・収量・品質(1983~'85年, 標肥区)

播種期	品 種 名	播種量	穂数			
			倒伏 a 度	あたり	外観	品質
月 日		kg/a	本/m ²	kg		
11. 5	ニシカゼコムギ	0.5	621	1.6	53.7	3.2
	"	0.7	679	3.8	51.7	3.5
	農 林 61 号	0.5	556	5	46.2	5.7
11.20	ニシカゼコムギ	0.7	579	0	51.7	2.2
	"	0.9	614	0.8	51.8	2.7
	農 林 61 号	0.7	528	4.2	42.6	4.9
12. 5	ニシカゼコムギ	0.7	489	0	42.0	1.8
	"	0.9~1.1	547	0	43.4	1.9
	農 林 61 号	0.9	396	1.2	40.9	2.8

注) 実施場所は農産研究所。外観品質は上(1)~下(6)で示し、倒伏程度は無(0)~甚(5)で示す。

の傾向は播種量が多い区で大きく、倒伏程度が軽微であったうす播の方が収量は勝った。また、標準播では播種量の違いによる収量差は見られなかったが、晩播では穂数・粒数を確保しやすい密播の方がやや増収効果が見られた (第2表)。

3) 施肥法 標準播では第1回追肥を窒素成分で0.1~0.2kg増肥しても倒伏はほとんどなく、3ヵ年平均収量で4~6%程度増収し、第1回追肥増収効果が認められた。なお、第2回追肥の増量は収量増加に結びつかず、品質の低下を招いた (第3表)。

以上のことから、ニシカゼコムギの良質安定栽培法として、全耕ドリル播での播種量は、11月上~中旬播ではa当たり0.5kg, 11月下旬播では0.7kg, 12月上旬播では0.9kgが適当である。追肥量については、第1回目は、農林61, チクシコムギの基準量より0.1~0.2kg/a程度増肥する。なお、第2回目の増量は品質低下を招くので避ける。

第3表 施肥法と穂数・倒伏程度・収量・品質(11月20日播)

試験場所	品 種 名	施 肥 法 (kg/a)	穂数			倒伏 a 度			同左		
			本/m ²	kg	%	度	度	度	度	度	度
農 産 研 究 所	ニシカゼコムギ	1追+2追	579	0	51.7	100	1上~1中				
		0.4+0.3	610	0.8	53.8	104	1中~1下				
	農 林 61 号	0.4+0.3	528	4.2	42.6	82	2上~2中				
筑後分場	ニシカゼコムギ	0.4+0.3	540	0.3	55.4	100	1中~1下				
		0.4+0.5	+26本	-0.5 (100%)	-	1下~2上					
		0.5+0.3	-39	0 (104%)	-	-					
		0.6+0.3	546	0.8	58.7	106	1下~2上				

注) データは3ヵ年の平均値。ただし、ニカゼコムギ(0.4+0.5)は1985年, (0.5+0.3)は1986年のみで、各々同年のニシカゼコムギ(0.4+0.3)との対比(差)で示した。